

のであった。

基準標本は昭和37年8月21日、京都東山の南端日吉神社附近の電灯に飛来したものを当時高校生であった楠亀 稔君が採集し、当時夏期生物宿題に昆虫標本作製があり提出されたものに混入していたものと記憶している。本属は暖地性のグループで、集光性の強いものが多いようで、本種は平地性、かつ5~8月と出現期間が長いので気をつけたら案外広く分布しているものかも知れない。

なお、今回の標本の採集データは下記の通りである。

雄、兵庫県宝塚市武庫川町、宝塚大橋、電灯、1985年5月28日、新家(ニイノミ)勝氏採集。(標本は筆者所蔵)。

終りにこの貴重な種を採集され、快く御提供下さった新家 勝氏ならびに、同氏を紹介された高橋寿郎氏には深い謝意を表したい。

ヨコヅナサシガメ兵庫県南部の記録

森 田 真 澄

ヨコヅナサシガメの兵庫県下の分布記録は高橋寿郎氏に依り集成されている(きべりはむし、9巻、1号、P. 18~20、1981)。此の報文を閲覧しても播磨地方の産地が少ない。これは調査不足に過ぎないのではと思い、1985年の秋季、努めて大木に目を付けて調査したところ6ヶ所の産地を発見したので以下報告する。

◎ 神戸市北区淡河町論破山 2-Ⅸ-1985

サクラの木の地上1.5mのところの有る深さ3cm程度の凹部に二十数頭の幼虫の群が存在した。群になっているところに脱皮殻10個程があった。このサクラは既に枯れていた。

◎ 三木市伽耶院 9-Ⅸ-1985

サクラの木の地上1.6mのところの凹部に十数頭の幼虫の群が存在した。蛾の幼虫をそろりそろりと追い掛けて行き腹端に口吻を突き刺している個体も目撃している。

◎ 加古川市八幡町八幡神社 22-Ⅸ-1985

クヌギの大木(幹周り2.5m、樹高16m)の地上1.8mのところのひび割れ部に脱皮殻とともに29頭の幼虫が存在した。他の木も探してみると幹周り1m樹高10mのアラカンに2頭(地上1.5mの樹皮のくぼみ)、幹周り1.4m、樹高9mのクヌギの木に2頭(地上1.2m)見

られた。2頭ずつしか幼虫が見られなかった木には脱皮殻が見られなかった。

◎ 姫路市仁豊野 26-Ⅸ-1985

アラカンに数頭の幼虫を見る。脱皮殻は見られなかった。

◎ 姫路市広畑区大町 14-X-1985

新日鉄前のポプラ並木の中の本(幹周り1.7m), 地上から1.5mの深さ3cm, 大きさ手のひら位の凹部に26頭の幼虫が存在した。脱皮殻は6個あった。

◎ 姫路市広畑区鶴町 23-X-1985

ここは町名が異なるだけで上記の地点から200m程離れているだけである。新日鉄前のポプラ並木の中の本(幹周り2.5m), 地上から0.4mの樹皮が割れかけて盛り上がったところに5頭の幼虫が存在した。脱皮殻は見付からず。

上記の地点とともにここは海岸線から900m程隔たった工業地帯の中心地であつ樹木といえほとんど街路樹ばかりのところである。このような場所にも本種が進出していることは注目してもよいのではないかと考える。

宝塚大橋の照明燈で採集した蛾(続報その5)

新 家 勝

I. はじめに

今回は、これまでの採集品中の未同定品で新たに同定できたものについて報告するとともに、これまでに報告したうちの誤りについて訂正させていただく。なお、採集場所については「宝塚市」を省略して記載する。

II. 未同定品中、新たに同定したもの。

- | | |
|---------------------------------------|---------|
| (1) <i>Anacronicta plumbea</i> Butler | ナマリケンモン |
| Ⅵ, 15, 1982 南口2丁目 | |
| (2) <i>Agrotis tolionis</i> Butler | オオカブラメガ |
| Ⅺ, 10, 1983 南口2丁目 | |
| (3) <i>Oligonyx vulnerata</i> Butler | ベニモンヨトウ |
| V, 3, 1983 武庫川町 | |